

第 10 回 日銀グランプリ決勝大会 審査員講評

審査員長	岩田 規久男	(日本銀行副総裁)
審査員	富山 和彦	(経済同友会副代表幹事、株式会社経営共創基盤代表取締役 CEO)
	秋山 咲恵	(株式会社サキコーポレーション代表取締役社長)
	森本 宜久	(日本銀行政策委員会審議委員)
	白井 さゆり	(日本銀行政策委員会審議委員)

1. 総評

日銀グランプリは今回で10回目の開催です。本年は全国から121編の論文が寄せられました。今年の提言には、女性の活用、学生の奨学金返済問題、少子高齢化に伴う廃校や老人介護問題など、話題性だけでなく現在の日本が抱える切実なテーマが多くみられ、参加者皆さんの現状に対する問題意識の真摯さをひしひしと感じました。

質の面でもしっかりとした調査、検討を踏まえた提言がなされているとの印象を持ちました。特に決勝大会に残った5チームの提言は、現状の問題点や課題を把握した上で、さらにそれを補強するための実務家への聞き取り調査を行うなど、地道な取り組みを通じて、独自の問題意識とアイデア・提言が導かれています。また、提言は現実を踏まえた具体的なものが多く、中には、もう少し工夫すれば実現可能ではないかと感じさせる提言もみられました。

本日のプレゼンテーションも、さまざま工夫がこらされていました。審査員から専門的かつ高度な質問を受けても、堂々と自分たちの考えを提示し、さらに審査員とその場で議論を深めていました。そうした若い人たちの姿は大変頼もしく、また嬉しく感じたところです。ちなみに、今回の決勝進出チームのメンバーは、過半が女性であったことも心強い限りでした。将来、女性が更に活躍の場を広げていくことを期待したいと思います。

さて、大会の冒頭でも申しましたが、多くの国で金融教育を重視する動きが高まっています。また、わが国の経済は、長年続いたデフレからの脱却に向けて、大きな転換点を迎えています。

こうしたタイミングで、日銀グランプリをきっかけとして、自ら調べ、考えたプロセスや、この場での審査員との質疑応答の経験は、必ずや学生の皆さんの糧になったと確信しています。金融は生きていくうえで不可欠の機能です。皆さんには、将来どんな道に進むにせよ、ぜひとも金融に関心を持ち続けてほしいと思います。

2. 個別の論文について

それでは、個々の論文ごとに講評を述べることにいたします。

【最優秀賞】 日本大学

「サ高住市場と地域の活性化に向けた2つの提案～20年後とその先も住みやすい未来へ～」

日本大学チームの提言は、事業者と自治体との間で廃校のサービス付高齢者向け住宅（以下「サ高住」とする。）として活用するためのマッチング・スキームを整備するとともに、活用原資にヘルスケアリートを活用することを提言しています。少子化に伴い発生している廃校の介護向け活用をより円滑に行おうというスキームです。

この提言では、まず、サ高住、廃校、ヘルスケアリートに関して綿密にヒアリングと調査を行い、その現状・枠組みを整理しています。さらに、廃校となった公立学校施設の用途不足の解消、サ高住の建設・運営資金の確保という課題を結び付けて、地方自治体、事業者、利用者の利益となる一石三鳥の優れた提言を行っています。廃校のサ高住転用の成功例やヘルスケアリートの活用といった施策をうまく組み合わせることによって、現実的な解決策を提示している点が高く評価できます。プレゼンテーションも分かり易く工夫されていました。

なお、廃校の転用に伴う初期コストの大きさや、公共施設の転用に関する制度的な制約の有無を調査したり、ヘルスケアリートの原資となる手数料収入の変動リスクを踏まえたリートの収益性についての考察を加えてみると、さらに提言に説得力が出ると考えられます。

【優秀賞】 常磐大学

「金融の力で女性の活躍を推進 ～女性活躍応援融資の提案～」

常磐大学チームの提言は、女性を積極的に活用する中小企業向けに、スコアリング手法による融資制度を創設することを提言しています。日本企業の大多数を占め、人手不足にもある中小企業が女性を積極的に活用できるよう金融面から支援するものです。

本提言では、女性の活躍を支援する現行の制度を綿密に調査・分析し、問題意識を明確にしたうえで、女性の活躍を広く支援する仕組みとして「中小企業をターゲットとする融資制度」が適切であることを丁寧に論じています。企業ヒアリングを元に、きちんと課題を把握し、また柔軟に方針を見直すといった検討の進め方に好感が持てます。また、融資基準の「リフトアップ基準」「バックアップ基準」の設定や、ポイント制による金利優遇など一連の制度設計について、実務的な細部にまで工夫を凝らしながら、網羅的に行っている点が評価できます。

一方、「女性活用に伴うイノベーション創出効果」と金利優遇との関係や、融資資金の用途制限の実効性などについて更に議論を深めると、本提言のスキームにより広がりを持たせることができると思われました。また、長期固定金利と金利優遇を組み合わせたり、女性の多様な働き方のニーズへの柔軟な対応に向けてより踏み込んだ視点が示されると、なお一層説得力を増したのではないかと思います。

【優秀賞】 東京経済大学

「休眠預金の危険な冒険～ロマンを忘れぬ者たちに、リスク資金を～」

東京経済大学チームの提言は、社会保障への充当などが検討されている休眠預金について、リスクを分散しつつ、その一部をベンチャー企業への投資ファンド創設に利用することを提言しています。日本において不足しているリスクマネーの供給に繋げようというものです。

この提言については、休眠預金に関する掘り下げた分析を行ったうえで、これをリスクマネーとして捉え、ベンチャー企業向けの投資低迷の打開策に繋げるという、若者らしいストレートな発想が評価できます。「休眠預金は実は眠っていない」という指摘も

願けるところです。

一方、この着想をより現実的なものとするためには、休眠預金の法律上の性格やスキームの社会的な許容度を踏まえ、ファンドのリスク管理手法、ファンド収益の還元や回収不能となった場合の負担のあり方などについて、検討を深める必要があると思われる。

【敢闘賞】 東北学院大学

「次世代の学生に繋げ奨学金リレー！～奨学金アプリは未来に繋がるタスキ～」

東北学院大学チームは、奨学金制度を利用している学生向けに、返済計画の策定等を支援するスマホアプリを提言してくれました。延滞を少しでも減らしたい奨学金の貸し手（日本学生支援機構）と生活設計に慣れていないが故に延滞する可能性のある借り手（学生）の双方がメリットを受けられるスキームを狙っています。

この提言では、まず、奨学金の返済に対する切実な不安感からスタートして、奨学金の仕組みや滞納者増加の事由を分析し、貸し手と借り手双方の課題を整理しています。こうして整理した個々の課題の解決に、学生が慣れ親しんでいるスマホの自動計算や位置情報取得など様々な機能、そして「いつでもどこでも簡単に」アクセスできるという特徴点を結び付け、さらにマイナンバーの活用というポイントをついた発想を加えて、スマホアプリによる解決策の提示に到達している点が評価できます。

一方、①返済意識が希薄な借り手にこのアプリによる管理を義務付ける手法や、②マイナンバーを用いて情報を取得する仕組み、③プライバシー保護の問題との関係、④奨学金申込み（借入れ）・モニタリング・回収のそれぞれの段階での制度設計のあり方やそこでのアプリの活用方法などについて整理を深めると、より実効性が高まるように思われました。

【敢闘賞】・【特別賞】 東京経済大学

「物価変動体感アクティビティ～Mission in キッザニア～」

東京経済大学チームの提言は、キッザニアを利用して小学生に物価変動を体験しても

らい、それを高校生に観察させるスキームを提言しています。金融教育の一環として、子供たちに物価安定の大切さの理解を促す試みです。

この提言は、子供に人気のテーマパークを舞台に、とかく難しく議論されがちな「物価」を学べる魅力的なスキームを提示しています。家計が同時に「買い手」にも「売り手」にもなるという大切な認識をもとに、①小学生は、物価が変動するなかで実際にお金を稼ぎ、使うことの難しさを体感することにより、②さらに高校生は、小学生の行動を分析することにより、ともに物価安定の重要性に対する理解を深められるように工夫されています。1つのアクティビティによって小学生・高校生それぞれの段階に適した学習を同時に実現する斬新な発想が評価できます。大人にも有益な体験プログラムに発展させられるのではないかと想像が膨らみます。また、提言の内容と同じく、楽しいプレゼンテーションも印象的でした。

一方、物価と給料が同じ方向に緩やかに上がる、または緩やかに下がる状況を体感できるような物価変動のさせ方の工夫や、(やや難しいかもしれませんが)銀行の貸出などを通じたお金の量の変化といった点まで採り入れると、より興味深いプログラムになると思われました。また、特定の施設に限定した活動だけではなく、より広がりを持たせる工夫も検討することが期待されます。

これをきっかけに、金融政策について、さらに関心・理解を深めていただければ幸いです。

3. おわりに

今回の発表論文に関する講評は以上です。日本銀行では、来年度も日銀グランプリを開催する予定です。本日の決勝進出チームの皆さんのように、多くの学生の方々が、身近な生活や大学での勉学をきっかけに健全な問題意識を養い、自ら主体的に考え、仲間と議論しながら提言を作り上げることを通じて、金融・経済面の課題に挑戦していただきたいと思います。

以 上